

令和 4年 8月 19日

浜田市議会議長

笠田 卓

様

議員名 牛尾 昭

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 令和 4年 8月 8 日 () : 8時 30分

2. 研修内容

講習から始めて、日本を小毒王国に

3. 研修先

スマート・ネットワーク協会

4. 調査経費

1000 円

(経費内訳

円、

円)

5. 調査研究活動の概要

下記にて



- 1、研修先：スマート・テロワール協会
- 2、目的：滋賀から始めて、日本を小麦王国に
- 3、期間：令和4年8月8日。オンライン研修会。
- 4、司会・進行：藻谷浩介氏。

講師：イカリファーム代取、猪狩篤士氏。

講師：マルエーパン代取、辻井孝裕氏。

猪狩氏：琵琶湖畔で麦400町の刈取りをコンバイン4台でやっている。トヨタと組んで機械の収納・整理整頓を検討し、最小限の在庫管理をしている。小麦は、北海道の夢力を導入して1400石まで乾燥出来る能力をもつ。結果としてわずか数年で投資を回収した。

(機械力) + (人材) 育成

初めは少数精鋭であったが、常に余裕をもたせる必要にきづく。スマート農業といっても、所詮人である。経営面積よりも、人の定着率：人材育成である。

* コメは市場が一杯で、小麦製品を50%以上が食べている。

* 今後の後継者像は、頑張り方を間違えない一潰れることのない事業体を目指す：主食を維持するために長期継続産業を

目指す。

目指すべき農業：一年間で、麦と大豆を2回収穫する。一米より収益率がよく、手間は米の20%で済む。一周年雇用に繋がる。実際は、米しか作れない農家がほとんどである。

辻井氏、猪狩氏の小麦を直接仕入し、国産小麦で滋賀県の給食納品を目指す。現在、ほぼほぼの量を納入している。

問題点

日本は、外国産小麦を使うように出来ている？しかしながら国産小麦給食を子供達が喜ぶ—全農や製粉業界からクレームがある。国産小麦は、作るのは簡単—使うのは大変。—国の制度が不具合がある。国産小麦は余っていて安いパンが供給出来る。だが、流通の問題点がある。

考察、現在、ウクライナ情勢で、小麦製品全般の値上げが始まっているが、実は、国産小麦は余っている。小麦は国が輸入しており流通に問題があるとの指摘である。日本の麦の消費量は米を超えており、食管制度の大転換の必要性を感じた。

以上、報告致します。 牛尾昭。